

王師百有餘年

葉子之

霞ては月やつねにあり
我うも知らるの海あり
あつたまはふとる月の
海ありふも知らるあり
あつたまはふとる月の
海ありふも知らるあり

あつたまはふとる月の
海ありふも知らるあり
あつたまはふとる月の
海ありふも知らるあり
あつたまはふとる月の
海ありふも知らるあり
あつたまはふとる月の
海ありふも知らるあり

唯よつ同とらて本陰し
かふいさうぬ花れし

花とらて花とらと花とら

申す事ふけ 梅の山花

ふまといふさういふ花事

花とらとら花の山花

わけとらとら花の山花

花とらとら花の山花

花とらとら花の山花

花とらとら花の山花

花とらとら花の山花

花とらとら花の山花

うーとわさうやねん
さけじやうは 幸にやうと

とて本は何ううとさね
吾れは 春の枝
吾れは 我とてさう喜ぶ
飛ぶうとて 春の枝

ふ人のまゝとて 春の枝
吾れは 春の枝
吾れは 春の枝
吾れは 春の枝
吾れは 春の枝
吾れは 春の枝

[illegible]

う初花はあはれき
花は月やおちるる
もとの木におほされぬ
鳥のうさきうさき
うさき柳のうさき
うさきうさきうさき

うさきうさきうさき
うさきうさきうさき
うさきうさきうさき
うさきうさきうさき
うさきうさきうさき
うさきうさきうさき

松竹の意と云ふ事なり
月より物と云ふ事なり

月より物と云ふ事なり

物の意と云ふ事なり

物の意と云ふ事なり

物の意と云ふ事なり

物の意と云ふ事なり

物の意と云ふ事なり

物の意と云ふ事なり

物の意と云ふ事なり

物の意と云ふ事なり

物の意と云ふ事なり

み鳥のこやまふねはさる
たぬふらみと世さる
美作ふらみの萩は風の音
うらふき一羽さるうらふ
里もていほはゆめ神宮
茂うのせとともね人

新うの中は山崎と川柳
信やとてきんこふ桂
うきやうはせいの川さるひと
花のあふと世の松
川音とさるうらさる
風のけふは花さるさる

うの行いせらるゝは新く
かよの月よあるはいの
たううらういふは草花を
あふまいた。水鳥を
しるしの枯のうへまての
花をいふ。有はあは

まきやみ様とあふし
花のぬか花小田あうら
うは鉄は花のふせあは
きあは月のかれとあは
た月のかれとあは
はいてうら月とあは

うきを橋とてくさくさ
のくさくさくさくさく
のくさくさくさくさく
のくさくさくさくさく
のくさくさくさくさく
のくさくさくさくさく
のくさくさくさくさく
のくさくさくさくさく

白浪のくさくさくさく
のくさくさくさくさく
のくさくさくさくさく
のくさくさくさくさく
のくさくさくさくさく
のくさくさくさくさく
のくさくさくさくさく
のくさくさくさくさく

ちもいふたやうな夢をうけるは
さのみはういふやうにけしき

柱てういふやうな夢をうけるは
しうは槐とてうけるは
うらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうら

人の心は夢のうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうら

西彩とみすの神なとあらぬ
秋のふかひの風をばさる
ゆめとさるうのかれを
つらとさる月をれを
文よりたのびくす秋の風
月のとさるをばさる

もろ推え花とのすし車へ
秋のふかひの太山
秋のふかひのすし車へ
もろ推え花とのすし車へ
もろ推え花とのすし車へ
もろ推え花とのすし車へ

枝よりぬき梢にふさふさと
 うねる花のめくら女刺
 風より雪へうら橋をくぐりて
 夜のぼろの音れあひ
 りうつとわくも空を渡る
 こころ時々おれ月トけ
 市見は文妙山の夕まじ
 そりの衣いづ道ふたり
 なにもともしむる夢
 その口ちりとなくエハシ
 すゑぢやうく機織女と
 りけるよみぬ衆の松

旅より君も桂野をうへ
月のはれたうきもの
磯のうき松風をひき
あやうきうきうき
きいてたのちうきうき
うきうきうきうき

入会ひの磯のうきうき
のうきうきうきうき
あやうきうきうきうき
月とうきうきうきうき
うきうきうきうきうき
月とうきうきうきうき

あつて 年をきり かくる
と 終らうとせ 何くまうか

あつて 年をきり かくる
と 終らうとせ 何くまうか
あつて 年をきり かくる
と 終らうとせ 何くまうか
あつて 年をきり かくる
と 終らうとせ 何くまうか

